

## 「撚り」「選り」「依り」の話

テキスタイル塾講師

撚糸担当 富板浩三

「低コスト・低価格商品」の流れは、尾州を激しく国際化に巻き込み、産地の生産減少と関連地場産業の弱小化、衰退を招いた。

早急な体質改善が望まれるが、コスト競争には限界が有り、今後は「適品適価」で他産地に負けない商品、または当産地でしか出来ない商品の開発が必要不可欠となっている。

その手段として①素材の多様化②原糸の複合化③ハイテク仕上げ加工④納期の短縮化などが挙げられているが、企業力の弱体化は、原糸の種類、量とも備蓄の圧縮・減少を余儀なくされ、素材開発の妨げになっている。

少ない備蓄原糸を最大限に活用する方法として、幾種もの糸を様々に撚糸する手法がある。多種多様の新タイプの原糸を短期間で創り出す、最も有効な手段であるといえる。

撚糸をするに当たり、場当たりの行おうのでは無く、冒頭に掲げた「撚り」と「選り」と「依り」の3項目を理論的に考える必要がある。

「撚り」＝撚ること自体が目的では無く、あくまでも手段の一つではある。ダブルツイスターなどのように「スピンドルの1回転で撚りが2回入り、捲上げ量が大きく生産性に優れた機種」や、リング撚糸機のように「ダブルツイスターに掛かりにくい難絨種をこなすが、生産性が低く、捲き量が小さいため結びボツが多くなる（15～20/1kg）機種」もあり、最も適した条件を設定するには、それなりの装置と技術を必要とする。

「選り」＝開発素材に見合った様々な原糸を選別し、組み合わせ（短×短・短×長・長

×長+Pu）、撚方法、撚方向、撚り数などを設定しなくてはならない。

異素材交撚では製織性、染色性、加工時での問題点を予測し、量産時点でのトラブルを回避し、解消するだけの知識と行動力が必要となる。

また、より多くの効果をもたらすために、使用原糸に予め「下拵え」（仮撚・追撚・染色）を施す事も考慮の余地がある。

「依り」＝上記の加工原糸を使用する事に「依り」、目標とする製品の風合（ハリ、ヌメリ、ドレープ性）、場風、発色性、物性（収縮率、カール、バブリング、ピリング）等、開発商品の完成度をより向上させる織規格・加工方法などトータル的に考慮する必要性がある。



FDCホームページがリニューアルしました。ぜひご覧ください。

<http://www.fdc.or.jp>